



第 88 回 KTSM 実技セミナー in 青森 開催報告

■開催日時：令和元年 7 月 27 日（土）10:30～17:00

①市民公開講座（食事サポーター養成講座）10:30～12:00（1 時間 30 分）

②実技セミナー13:30～17:00（3 時間 30 分）

■開催場所：公益財団法人シルバーリハビリテーション協会八戸看護専門学校

〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼 22-41

■主催：NPO 法人 Reconnect（はちのへファミリークリニック事務局）

■共催：NPO 法人口から食べる幸せを守る会、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会

■後援（五十音順）：青森県、青森県医師会、青森県栄養士会、青森県看護協会、青森県言語聴覚士会、青森県作業療法士会、青森県歯科医師会、青森県歯科衛生士会、青森県訪問看護ステーション連絡協議会、青森県薬剤師会、青森県理学療法士会、NHK 青森放送局、デーリー東北新聞社、八戸市、八戸市医師会、八戸市歯科医師会、八戸地区介護保険事業者協会、八戸薬剤師会

■協賛：フードケア（カレイド）、日清オイリオ、大塚製薬工場

■助成金：公益財団法人みちのく・ふるさと貢献基金

■開催目的：NPO 法人 Reconnect では八戸市内の病院、介護福祉施設、在宅で「口から食べること」に困っている人を地域全体の多職種で支援するために、情報や知識の共有と技術の伝達を行い、最期まで口から食べられる街づくりを目指して活動している。八戸市の医療介護職員が摂食嚥下に関する共通した知識をもち、技術が向上することで、地域に暮らす人々が安心して口から食べる希望を叶えることができるように研修会を不定期に開催している。2016 年 11 月に八戸市で第 41 回実技セミナーを開催し、病院では早期経口摂取に取り組む動きが見られるようになってきた。しかしながら、八戸全域に広まっているとは言い難く、特に介護福祉施設や在宅では摂食嚥下の専門職がいないために、誤嚥性肺炎を恐れて経口摂取を諦めてしまう場面も少なくない。今回は市民公開講座を含め、地域全体に「口から食べること」の意義を広め、正しい知識と技術を持った人が増えることで、地域住民の食べる幸せが最期まで続く街づくりを目指す。

■講師・アドバイザー一覧<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事長	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会副理事 訪問看護ステーションたべる	看護師（摂食・嚥下障害看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆	NPO 法人口から食べる幸せを	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーショ

(愛知)	守る会 理事 あい訪問歯科クリニック	ン学会認定士) KTSM 実技認定者
前田有紀子 (秋田)	JA 秋田厚生連雄勝中央病院	看護師 (摂食・嚥下障害看護認定看護師) KTSM 実技認定者
高橋 瑞保 (青森)	はちのへファミリークリニック ク	管理栄養士(日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) KTSM 実技認定者

*アドバイザー補助〈敬称略〉

1・2G 補助：柿澤良江（看護師、岩手医科大附属病院、岩手県）

3・4G 補助：丹藤淳（看護師、青森慈恵会病院、青森市）

5・6G 補助：佐々木都（看護師、八戸市立市民病院）

■運営スタッフ：はちのへファミリークリニック 2名、八戸看護専門学校学生 6名

■参加者内訳

職種内訳 (人)		職場内訳 (人)	
看護師	18	病院	19
介護職	8	施設	12
管理栄養士	8	クリニック	3
栄養士	2	在宅訪問	5
医師	1	その他	3
歯科衛生士	1	合計	42
PT	1		
ST	1		
薬剤師	1		
事務	1		
合計	42		

嚥下に関わった年数 (人)	
0年	11
1年未満	6
2～5年	13
5年以上	11
無記入	1
合計	42

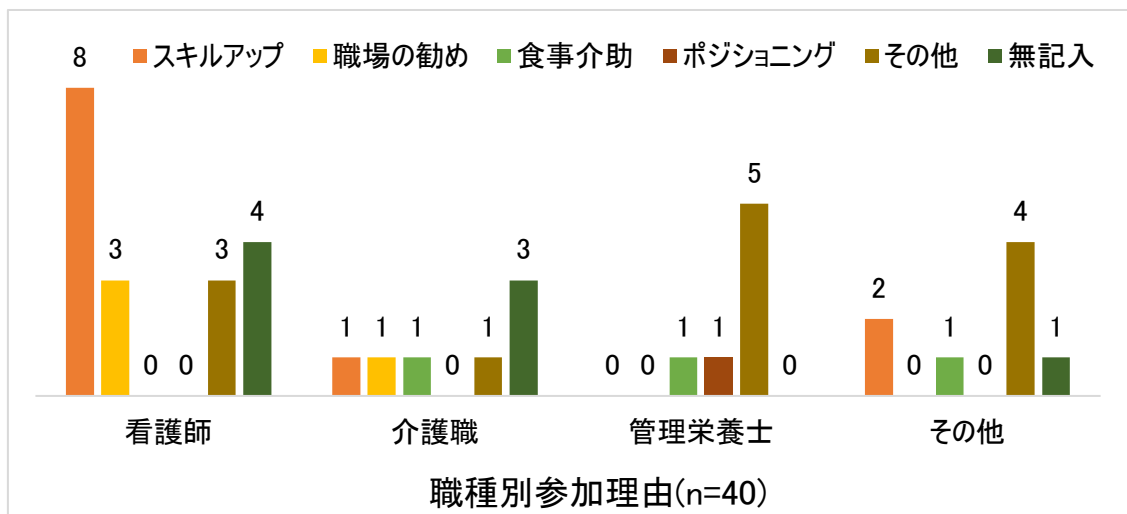
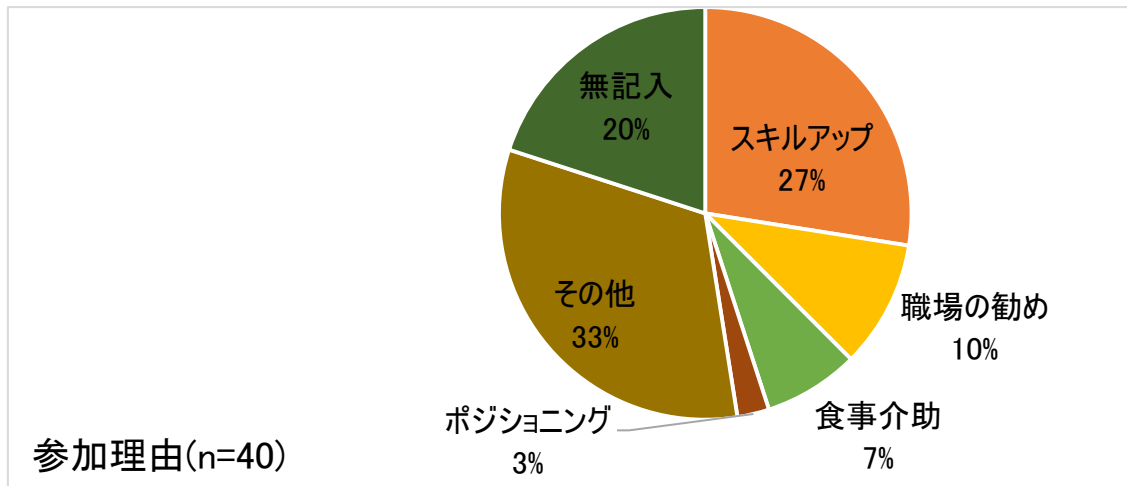
■アンケート回収率：97.6%（当日追加参加があり、1名はアンケートを配布していない。よって、42名の参加だがアンケートは41名に配布し、40名から回答を得た）

■アンケート回答結果

質問1 職種と都道府県

	看護師	介護職	管理栄養士	その他	合計
青森県	14	7	1	4	26
秋田県	2	0	2	0	4
岩手県	1	0	2	1	4
山形県	1	0	1	0	2
宮城県	0	0	1	2	3
福島県	0	0	0	1	1
合計	18	7	7	8	40

質問2 参加回数と参加理由



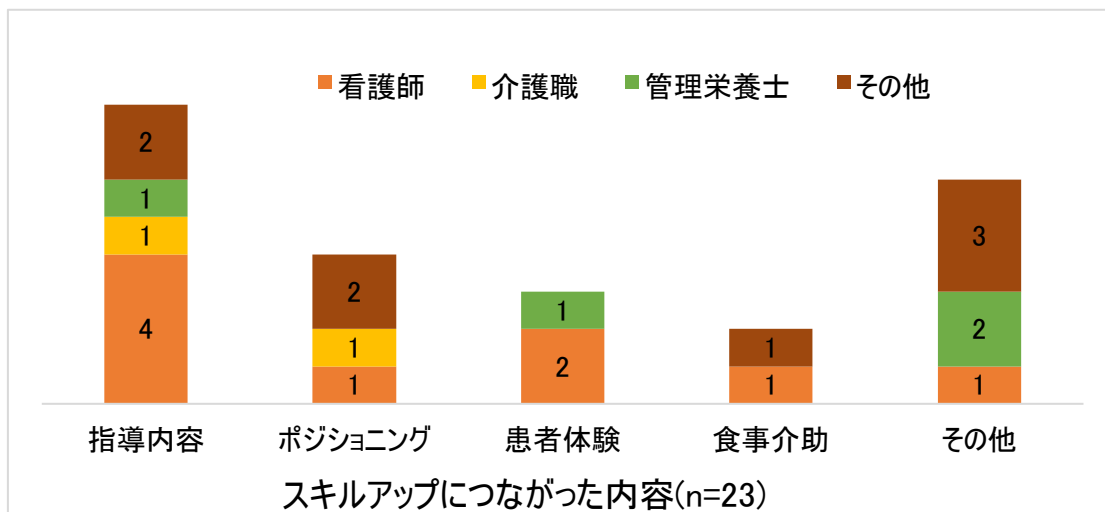
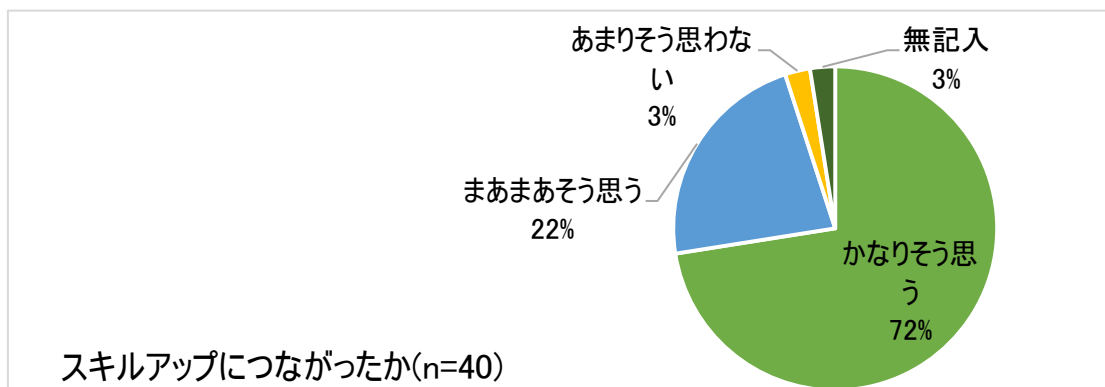
参加回数（人）	
1回目	35
2回目	3
3回目	2
合計	40

《自由回答》

自身の看護ケアに生かしたいため
上司の勧めがあったから
職場での周知のため
現場での摂食援助に活かしたい、スキルアップ
当院の入院患者が誤嚥性肺炎を繰り返している方が多いので、摂食嚥下の知識を持ってサポートしたいと思い参加した
職場の人に行ってみてはどうかと勧められ、興味がわいたから
なかなか食事介助の機会がないため
口から食べたい、食べることの重要性を感じていたため
最期まで口から食べることを支援するためのスキルを身につけたいため
実際の現場で「食べたい」と思う利用者に食べさせてあげられる知識や技術を身につけたいと思ったからです
看護師長の勧め
嚥下訓練について詳しく学びたかったため
食事介助療法に興味があるため
自施設でのスタッフ教育、自らの技術の獲得
施設入所者で経管栄養を希望されない方への経口摂取介助で迷う時がある為
ベッド上や車イスでの介助者が多く、どのような介助がよいのかをまなびたかった
利用者様の食べるよろこびを支援していくため、自分のスキルアップを図りたいと思ったから
上司のすすめ
口から食べるための評価方法を知りたかったから
青森市保健大学で研修を受けました
看取りでの食事について、形態や介助方法を学びたかった
1回だけでは理解しきれなかったため、もう1度、実技実習を受けて見て覚えたかったため
ポジショニングや食事介助について学びたかったため

実技経験がなく、基本的知識を学びたかったため
知人が小山先生の講義がとても良かったと話していたので、参加してみたいと思いました。
摂食嚥下に関して知らない事が沢山あるので、この機会に学びなおしたいと思ったから。
施設に入所されている方への安全な食事介助を実施する為
患者さんに合わせた応用力を身につけるため、実技セミナーを受けれるチャンスがあれば受けたい。スクリーニングテストを出来るようになりたい。
以前、小山先生の講演を聞いた事があり、薬をのんでもらうことにとっても必要な技術と感じた
摂食機能改善の技術を高めたいため
1回目に教えてもらったが、一人ではまだ実践できないと感じたため
今後、自分の勤務先でKTSM実技セミナーを開催したい、と考えているからです。

質問3 スキルアップにつながったか

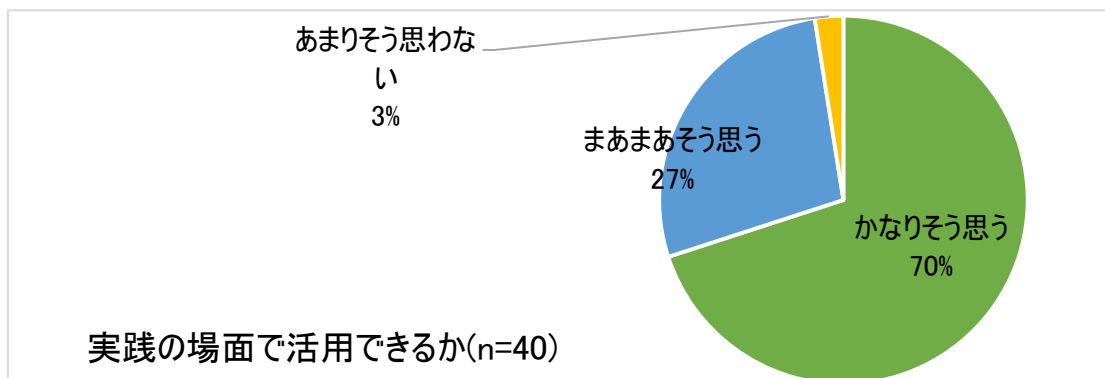


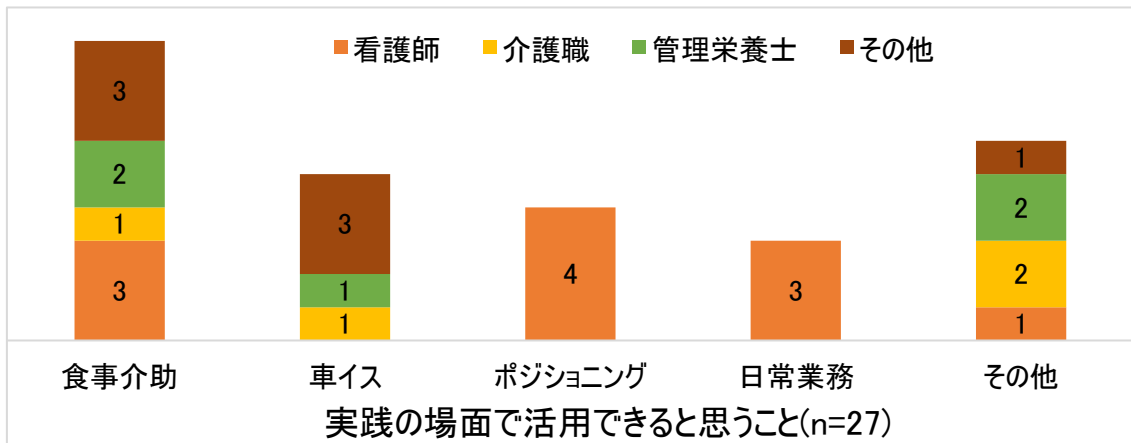
《自由記載》

実技で患者役も体験することで分かりやすかった
アドバイザーの助言を得ながら細かなポイントまで学習できたため

技術を学ぶことができた
介助時の仕方、方法
体験してみて実感しました
実技をみていただき、自分のくせがわかった
ポジショニングや介助方法などためになりました。また、患者役でわかったことも多かった。
ポジショニング、食事介助についてきちんと学ぶことができた
技術のむずかしさを理解した事で、指導する時に役立つ事ができる
現場に実践している内容もあったが、その根拠を知ることができた。指導する上で、なぜこうするのか、明確に説明できると思った。
今までより、食事の姿勢、介助の姿勢を気かけ活かす事が出来ると感じました。
最期まで口から食べたい
食事の際の細かなポイントが沢山あり、体験できた事で理解が深まった
今までの自分の食事介助が間違いばかりだったから
実際に患者側になり、介助の経験ができて、どのように介助をしてあげれば安全な食事が出来るか学ぶことができた
水飲みテストの注意点をたくさん知れてよかったです。
実際に体験したことでより理解が深まった。
ポジショニングについて、かなり参考になりました。
改めて忘れていたポイントや日頃の分からない事などを聞く事ができた。
ギャッジアップから車イスのポジショニング、食べさせ方全て
評価法やアプローチ法等の体系がしっかりしており、指導内容が具体的かつ合理的でした
忘れていた点を確認でき、教える人が違うとまた違ったポイントがあり、学びになった
スクリーニング→ペースト食→ソシヤク食→車イスでまでを学ぶことができて実り多かったです。

質問4 今後の実践の場面で活用できるか



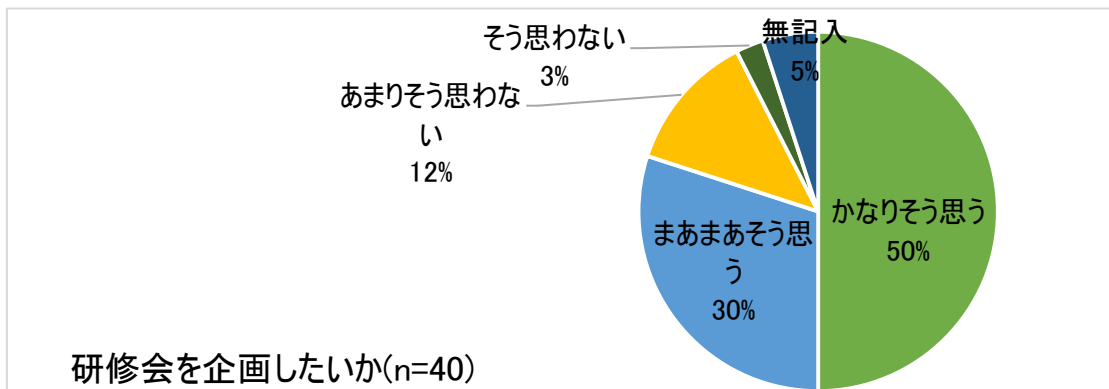


《自由回答》

麻痺のある患者さんや認知症の患者さんの食事介助でポジションや食べさせ方のポイントが分かったから
入院患者で摂取・嚥下機能が低下している方への食事介助等
食事介助者のポジショニングを工夫していくことができる
看護部 NST 委員会、院内褥瘡委員会の研修を企画する
ポジショニングの重要性を方法
食事介助をする時
毎日、食事介助の時
毎日のくらしの支援で
在宅でベッド上でのポジショニングや家族への指導につながる
日常業務で活用できる
日常的な病院でのケアに活用していきます
食事介助や水分補給の場面で有効。経口摂取できる方には、最後まで一口でも食べて頂きたいと思う。
実用的で分かりやすい
職場で
リクライニング車椅子、車椅子で摂取している方がほとんどなので食事介助の面ですごく役立つと思いました。
車イスで食べている患者さんが多いからポジショニングについて改善しようと思う。
利用者さんに対する食事介助について見直しをしたいと思います
水のみテストの予定があるので活用できると思う
業務（食事介助）、また、栄養量の見直しが重要だと感じた（最後の症例を聴いて）
今日学んだ食事介助をまわりのスタッフにも教えようと思います

経管栄養の方が経口摂取できるかどうかテストする時に使いたいと思います。
食事介助の場面で正しい方法かどうかなどその人に合っているやり方で実践したいと思う。
車イスに座っていて食べずらそうな方々が何人かいますので、実践してみたいです。
歯科医院で働いていて車イスの患者様に対応する事が多いので、車イスでの姿勢調整。ある程度食事の姿勢調整、介助について身につけてきていると思うので、患者さんやご家族の相談を受けれるような仕組みを作りたいと思った。
訪問している施設では車椅子で食堂で食事をしている方も多くいらっしゃる。少しでもアドバイスできたら楽しく食事をしてくれるのではと感じる。
在宅や施設患者の食事介助へのアドバイスや嚥下評価
スプーンの使い方、口に運ぶタイミング、など学ぶ点が多かったです。

質問5 研修会を企画したいか



《自由回答》

まずは病棟での勉強会を企画します
病棟での勉強会
摂食機能療法委員会への持ち帰り、委員が全体で共有し、スキルアップにつなげたい
まだ知識も技術も不十分で復習が必要なため
難しすぎる、繰り返さないと総合的にできない
間違っている食事介助の方法などがあり、みんなと共有したいと思いました。
たくさんの人に知ってほしいと思ったので
新入職員の研修で行いたいと考えています
職場会議において、伝達講習したい
医療と介護と市民をつなげて「ベース」となる本があり分かりやすい
明日から実施してみたいと思います
月に1度研修があるので、ぜひ職員に知ってもらいたいし、必要性を感じました。
栄養士会での研修

時間がない
まだ正しく伝える自信がないため、自分が正しく理解していないため
もっと勉強してからだと思う。
介護職員全員に学んでもらいたいと思いました。
私は岩手で働いているので、岩手でも午前中のような市民向けのお話や実技セミナーなどあってほしいと思いました。
訪問している老人ホームのヘルパーさんたちに勉強させてあげたい。
まずは自分の技術を確認し、高めた上での伝達をしたい。
KTSM バランスチャートを地域・施設で利用出来るようにしたい
2019年12月22日に小山先生におこしいただくことになっています。この時は当院グループのST、NSを中心に実施する予定ですが、一般向けの公開講座もお願いしたいと思っています。

《その他自由回答》

- ・最後の事例、とても感動しました。自分もがんばります。

■実技セミナーの様子





●ご参加いただいた皆様、お手伝いサポートの八戸看護専門学校の学生ボランティアの皆様、はちのへファミリークリニックのスタッフの皆様、KTSMの皆様、暑い中長時間に渡りありがとうございました！！

(文責：はちのへファミリークリニック 管理栄養士 高橋瑞保)